



第 48 号 (年 4 回発行) 編集発行 前学院大 学 会 弘 報 委 員 会 印刷所 (有)小野印刷所

2012年弘学祭開催される

10月7、8日に2012年度の弘学祭が「賑々(わいわい)」というテーマで開催されました。今年も天候にも恵まれ、多くの高校生や近隣の方々、学生教職員が集いわいわい、がやがやと楽しいひと時を過ごしてい



じゃんけん大会

ました。お笑い芸人のライブをメインイベントとして、学長にも協力いただいたじゃんけん大会など盛り上がり、大いに盛り上がりました。サークルの発表や模擬店など、学生・教職員が協力し楽しく、賑やかな学祭でした。(詳細は、4面に)



本多庸一とキリスト教 (21)

学校法人弘前学院 理事長 阿保 邦弘



教育と宗教の衝突

明治二十二(一八九九)年二月十一日に発布された大日本帝国憲法第二十八条には「日本臣

民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及ヒ臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス」と明記されていた。信教の自由を従来正式に認められていなかったのはキリスト教であったから、これによって長年の日陰者の立場から解放された喜びを享受したのはキリスト教徒たちであった。

本原理を維持し、その頂点から底辺にいたる階層身分制的倫理を確立するために、天賦人權論は否定され、キリスト教の人間観は克服されなければならなかった。こうして天皇制国家とキリスト教との衝突が、起こるべくして起こり、国家主義の側からのキリスト教攻撃が始まるのである。そしてこの情勢がさらに明確なかたちを取ったのは、明治二十三(一八九〇)年十月三十日に出版された「教育勅諭」においてであった。天皇制国家の論理を封建的倫理・道

ノーベル賞受賞のニュースに触れて



学長 吉岡 利忠

弘前学院大学の広報新聞である「弘学時報」は年に4回、定期的に発行されるようになった。規則的刊行されることで新聞を手に取り読む楽しみが増えた方々も多くなったことである。

にした方も多いでしよう。医学部を卒業し、スポーツで骨折を何度も経験したことから整形外科医を目指したが、手術が下手で数十分で終わる手術を数時間かかるなど、臨床医には向いていないと考えるようになり、そのこともあり、病気を発症させるメカニズムの研究や治療法の開発こそ自分の進むべき道だとし、今回の受賞となるさまざまな細胞や組織になる能力のある万能細胞iPS(人工多能性幹)細胞の開発に迫りついでた。iPSがすぐさま難病に罹っている患者さんの治療に結びつくことではないが、今後の研究から十分その可能性は大きく、苦しんでいる多くの患者さんの副音になることは間違いない。何しろ、自身の皮膚細胞から目的とする組織・臓器を再生させるのであるから、たとえば拒絶反応などを極力抑えることが可能となる。病気に陥った神経、骨格筋、心臓などに再生した細胞や組織を導入して元通りにする、なんと素晴らしい開発

「弘学時報」への原稿を頼まれた2012(平成24)年10月8日(月)。その日、スウェーデンのカロリンスカ研究所は2012年度ノーベル医学・生理学賞を京都大学再生医学研究所の山中伸弥教授ら2人に授与すると発表した。悲しいニュースや厳しい経済・外交問題が多い昨今、嬉しいニュースが入って来た。

新聞や各種報道によれば、山中教授の研究歴はもとより彼の日常生活、研究生活の微笑ましいエピソードなどが掲載され目

徳・思想の強化再編成によって体系化した教育勅諭の精神が、ひたすら国家目的に合致するような意識を持った人間像の育成をめざしていた。教育勅諭を錦の御旗に、国家主義のキリスト教に対する本格的な攻撃の火の手が上がった。明治二十四年一月九日、第一高等中学校における内村鑑三の教育勅諭に対する礼拝拒否事件によって、先鋭化した問題となってきた。そして、同年十一月の「教育時論」にのった文科

授井上哲治郎の「宗教と教育との関係についての談話」をきっかけに、教育勅諭の精神とキリスト教との衝突という大論争が展開されるに至った。井上の談話は「キリスト教は出世間(世俗の煩惱を離れて、悟りの世界に入ること)仏教用語)の道徳であり、無差別の博愛を説くものであるから教育勅諭の中心である忠孝の道徳を危うくするもので、日本人の性質と相容れるものではない」という趣旨を強調したものであった。キリスト教が国体と相容れないという論

をしたものだと考えながら記事を読んでいた。さて、長年にわたり一つ同じことをやるのは同じ分野の研究や仕事をすることは並大抵なことではない。特に医師の資格を有しながら地味な基礎医学の研究者を続けるのである。「奇人変人」と言われてもおかしくない。

経済的な基盤はもろろんのこと協力してくれる同僚や仲間がいなくて不可能だ。iPS細胞構築の理論はかなり前から言われており、そのことを弘前学院大学の3学部で授業でも教えていた。生命は一個の受精卵の発生から始まる。体には多くの細胞、器官などがあるが、全て一個の受精卵がその源である。それを遊ばせれば一個の細胞に辿りつくことは理論的には分かっている。実験で証明しかつ確立することは至難の業である。

慢し地道に「おそい仕事からよい職人が出る」などは、ゆっくりと時間をかけて念入りに仕事をすればよい出来栄えになり、立派な職人・社会人そして研究者として鍛えられるということであろう。また、「慣れは巧(うまさ)を生む」は、手術が下手でも実験手法がますぐともそれに慣れると自然と巧妙にやることのできるという名言でもある。時間をかけずに物事をこなしてしまふことは、結局は薄っぺらな仕事になってしまう。山中教授はいみじくも言う。「何十回トライしても失敗ばかり。やめたくなったり、泣きたくなったりしたことはよっつちゅう。家族の支援がなければ研究は続けられなかった」と。「家族の支援」を仲間・同僚からの支援と置き替え、また「研究」を仕事と置き替えてもいい。

難には多くの国粋主義者が参加し、仏教側からも尻馬に乗った発言が加わった。井上はさらにそのキリスト教攻撃を「教育と宗教の衝突」と題して諸雑誌に発表、二十六年これを一本にまとめて刊行した。これは前の談話の趣旨を一層明確にし、その国家主義的立場からキリスト教排斥を述べたものであり、その要点は次の諸点であった。

第一に教育勅諭の精神は国家主義であるのに対して、キリスト教は非国家主義である。第二にキリスト教は国民道徳

の根本である忠孝を重んじない平等主義である。第三にキリスト教は重きを出世間に於いて世間を軽んずる。第四にキリスト教は墨子の兼愛のように無差別的博愛主義である。要するに、井上はキリスト教は非国家主義であり、国家主義を

2012年度 学内就職セミナー 弘前学院大学独自の企業説明会 2013年 1月11日(金) 午後1時~4時まで 場所 弘前学院大学 体育館 いながらにして 企業を知るチャンス!! 合同就職委員会

井上哲次郎著 教育と宗教の衝突 版権所有 敬業社発行

研究紹介⑨

山人と海人の伝承の生成

文学部 日本語日本文学科 教授 島山 篤



私は日本の古代文学を専攻している。ここ二年ほど、古事記と日本書紀に記される国栖伝承と枯野伝承の生成を考え、講じてきた。この二つの伝承は、河内王朝の山海の政(祭事)を代表している。

的な関係にあり、祭祀文化の情報交換も当然多かったはずである。その結果、両部族の祭祀で歌われる呪術歌は、「○○(負の状況)の(主語)さやさや(正の状況)」になるといふ共通した構造を持っている。

代表して統治され、淡路島の海人族の献上した枯野琴の玲瓏な音色は海上の統御はもとより国土の統治にも用いられた。

村田千代先生の「旭日双光賞」

受賞をお祝いして

平成24年度春の叙勲において、本看護学部で村田千代客員教授が「旭日双光賞」を受賞されました。



村田先生は平成17年度から看護学部の教授として「成人看護学」「安全管理」「看護管理学」「卒業研究」などを担当されて

ます。リカレント教育の立ち上げ、内容の企画、充実に関わられてその基盤をつくりました。現在、リカレント教育は例年多くの受講生を迎えるまでに成長しています。

談話室

介護が必要にならないように

看護学部准教授 福岡裕美子



昨今の報道を見ていると、何だか高齢者が増えていくことが悪いことのように思われることが度々あります。人間は歳をとることから逃げることはできませんし、いずれ誰にでも訪れることなのです。

持ち、積極的に人と触れ合う機会を持ちましょう。人との交流が体と心を元気にします。私たちの調査結果では、75歳前後が体や心の調子を崩しやすい時です。

見学はめつたにできない貴重な体験だった。触らせていただいた資料は掛け軸やきん刺しの着物、鳥瞰図などである。これらの資料に傷や汚れをつけないよう丁寧に、しかし作業が時間内に終わるよう手早く、また資料の並び順などを間違えないよう

「本日の先生になってみたい」「修学旅行に一緒に行きたい」この学校に戻ってきて、など、生徒たちの言葉、そして笑顔に励まされた三週間でした。



教育実習を終えて

文学部 英語・英米文学科四年 鈴木あず沙

私は、5月21日から6月8日までの3週間、母校である田舎館村立田舎館中学校で教育実習をさせていただきました。2年1組のクラスを担当し、2年1組、2組で英語の授業を行い、その他に1組では道徳の授業も行いました。

博物館実習を終えて

文学部 日本語・日本文学科四年 山内 泉



はもちろんだが、自分の中にある「博物館」や「学芸員」の仕事に対しての考えに変化や新たな発見ができたかと思いを参加した。

実習内容は、各展示室・収蔵庫・その他バックヤードの見学をはじめ、考古・美術・自然・先人・歴史民俗の六つの分野それぞれ資料に触れてみる、資料を包むための資料づくり、図書整理、資料の他館への貸出作業の見学など、とにかくたくさん事をさせていただいた。この中でも特に資料に触れることと貸出作業の

これらの体験を通し、実習前と実習後では視点が変わったと感じている。実習前は「来館者と

「看護管理学」を担当され、看護学部学生の教育の一端を担って頂いております。去る9月15日に「村田先生の旭日双光賞をお祝いする会」が盛岡市で開催されました。

看護総合実習報告

小児看護領域

病児保育室での学び



看護学部四年 瀧澤 さやか

私は病児保育室で総合実習を行いました。病児保育とは、親が就労しているなどで保育所に通っている子どもが病気になる...

看護総合実習報告

基礎看護学領域

「感染予防」をテーマに

看護学部四年 坂本 孝太



「感染」は入院している患者さんの治療を妨げるだけでなく生命を危険にさらしてしまいます。そのため、感染予防について学び、将来、病院で感染を起...

病院の実務に即した実習ができるように3つの実習目標を掲げました。1つは「病院という組織の視点と個々の臨床看護師の視点で感染予防について学ぶこと」、2つは「看護技術に共通するスタンダード・ブリーチン...

きませんでした。しかし、スタッフの方々の子どもに対する接し方や「初めて子育てをする親の気持ちになってみる」となどの助言を頂き、余裕を持って子どもに接することができるようになりました。また、子どもは思っている以上に私の動揺を感じ取っていることに気付きました。看護者の気持ちが子どもの心理に影響するので、看護者自身が気持ちに余裕を持つことが大切だということ学びました。

で、教科書の内容より具体的に症状を判断できるようにになりました。今回の病児保育室での総合実習では、より子どもと密着して看護することによって、病棟では学べなかった親の子育てに対する苦悩を理解して、子どもの甘えを受け止めることが病児の子どもの心理的ケアに重要だと学ぶことができました。

私は、二十三日間の社会福祉実習を、介護老人保健施設である希望ヶ丘ホームで行いました。実習では、自分が担当する利用者に対し、実習一日目からアセスメント(事前評価)を行い、最終的には利用者のケアプラン作成と計画の実施をさせて頂きました。

ことができ、更に理解が深まったと感じています。施設内部の職種だけでなく、ホームに併合されている地域包括支援センターや居宅介護支援事業所などの事業にも参加させて頂いた事はとても良い経験となりました。この実習で印象に残っている事の一つは、新規入所希望の方との相談場面に立ち会ったことです。授業では何度も学んできましたが、本当の現場を見たのはこれが初めての事でした。相談をした方の中には、自分の患う病気に涙する人、自分の家族を入所させたいが家計が...という方もいます。何とかしてあげたいと思うことが沢山ありました。しかし、時に施設側は「出来ない」と言うこともあるのです。例えば複数の病を患い新規入所を希望する方がいても、施設の出来る範囲を超える場合、入所が出来ない事があります。それはとても歯痒く辛いものです。しかし、その後、そのような方々が、設備が整っている他の施設に入所出来るように情報を提供したり、準備をしてあげられることも、大切な仕事であると感じています。

社会福祉学部実習報告

介護老人保健施設での実習を終えて

社会福祉学部三年 三國 由唯



を活かし、個別性のある看護を実践しました。その結果、どの患者さんも感染を引き起こさずに過ごすことができました。現在学んでいる基礎知識を土台にして、さらに組織的な「感染予防ガイドライン」や個々に応じた感染予防策について学びを深めていくことが必要だと実感しています。

感じました。また、2週間に2人の患者さんを受け持つことは大変でした。複数の患者さんにおける看護の優先度を選択するために、アセスメントが重要であることを学んだことで、将来につながる実習ができたと思っています。

者と一緒にプログラムに参加し、利用者の行動等を観察しました。さらに、利用者話を伺い、デイケアの利用目的や今後の目標などを知ることが出来ました。指導者は、利用者の要望を踏まえ、支援計画を立てなければなりません。しかし、利用者の要望が高くその通りに行かないこともあるようです。利用者のニーズに沿った計画を立てることは容易くないと知りました。

も話し掛けて下さることも多くなり、悩みを打ち明けてくれる方もいました。悩みの相談のときは、傾聴し、どのように改善すれば良いのかアドバイスをしつつ、利用者自身にも考えてもらいました。そして、私は利用者としてコミュニケーションを取るとき、利用者自身が自己の問題を見つめることが出来るよう心がけました。

私は今まで精神障がい者と関わったことがなかったため、今回の実習は貴重な体験であり、様々な知識を身に付けることが出来ました。今後は、この実習を基にさらに研鑽を積み、仕事に活かしていきたいと思えます。

社会福祉学部実習報告

精神保健福祉援助実習を終えて

社会福祉学部四年 三橋 詢也



私は、精神保健福祉援助実習を精神科病院と自立訓練(生活訓練)事業所で行いました。精神科病院での実習は、受診援助の見学やデイケアの支援活動などに積極的に参加しました。受診援助の見学では、指導者

が患者さんやその家族と面接を行い、様々な情報収集しながら主訴を導いていました。受診援助の面接では、一人ひとりの症状や置かれている状況が異なることから、面接も考えながら行わなければなりません。私は現場で、指導者の技法を間近にし、大学では学ぶことが出来ない現場の雰囲気や面接技法の難しさを学ぶことが出来ました。また、デイケアでは、利用

次に、自立訓練(生活訓練)事業所での実習では、様々なプログラムに参加することで、利用者の方と沢山コミュニケーション取る事が出来ました。実習が経過する中、利用者から

入所を希望する方がいても、施設の入所出来ない事があります。それはとても歯痒く辛いものです。しかし、その後、そのような方々が、設備が整っている他の施設に入所出来るように情報を提供したり、準備をしてあげられることも、大切な仕事であると感じています。

「鳴海要吉パネル展」開催

学祭に合わせ、10月7日から12日まで、青森県近代文学館(青森市)からパネルをお借りして、「鳴海要吉パネル展」を開催しました。

鳴海要吉(1883-1959)は青森県の生んだ独創的な詩人ですが、太宰治や寺山修司に比べて、現在、その業績が広く一般に知られていないといえます。今回の企画は、そのような状況に一石を投じることになったと思います。また、本学は青森県で唯一、文学部を有している大学で、その特徴と伝統を現すことができたと自負しています。



(文学部 教授 井上諭二)



お知らせ

クリスマス礼拝・クリスマス音楽の夕べ

◆クリスマス礼拝 12月13日(木) 16時より
◆クリスマス音楽の夕べ 12月13日(木) 18時30分より
場所: 弘前学院大学 礼拝堂
入場無料(整理券配布)
音楽会については、本学まで問い合わせ下さい。女性合唱・サクソ演奏・パイオルガン演奏を予定しています。
(連絡先: 0172-34-5211)



みんなので賑々!!

学祭実行委員長 看護学部二年 岡田美帆子

今年も十月七、八日の日程で弘学祭が開催され、皆様の協力のもと無事に終えることができました。今年「賑々(わいわい)」をテーマに掲げ、私達学祭実行委員会や本学の全学生、教職員、地域の皆様やスポンサーの皆様と一緒に賑やかに楽しめる学祭を目指しました。

日頃、私達が楽しく充実した学校生活を過ごしていること、学祭を運営できることは皆様のご協力、ご声援をいただいているおかげです。この学祭を通して多くの方々と触れ合い、賑やかでわいわいとした喜びや楽しさを皆様と分かち合うことで感謝を目指しました。



今年「キングコング」「チョコレートプラネット」のお笑い芸人ライブをメインイベントに加え、昨年度から大変好評だったじゃんけん大会、学内軽音サークルによるバンドライブ、弘前大学ダンスサークル、各サークルの模擬店、カラオケ大会、そして後夜祭でのビンゴ大会や花火大会など多様なラインナップを企画し、参加者の皆様はもちろん、主催者の皆様も楽しめるような学祭を目指し全力で取り組み準備してきました。準備では昨年度の反省点から問題を具体的にし、解決方法を委員全員で考えて意見を出し合う活発な話し合いの場を大切にしました。話し合いから委員全体が一丸となり責任感や積極性が生まれ、話し合う中で、学祭全体が

「つながる」喜び

「いしてまゐ」の6大学合同文化祭を終えて

社会福祉学部社会福祉学科三年 佐藤 友香

私たち「いしてまゐ」は、9月2日、土手町の蓬萊広場で6大学合同文化祭を開催した。当日は真夏のような日差しで、絶好の文化祭日和となった。



会場全体を盛り上げたのは、ステージイベントである。ねぶた囃子と、6大学合同文化祭のテーマ「つながる」の掛け声を幕開きに、アカペラやダンスなどの学生サークルのパフォーマンスが設けられた。賑やかな音と熱気は、地域の方々の足を徐々に会場へと向かわせ、会場内の雰囲気は活気づけられていった。

また、地元商店と「いしてまゐ」とが「つながる」コラボ企画も実施した。ひとつは「Linkbox」

盛り上がりつつ欲しいという実行委員の思いから新たにスタンプリーを企画に加えました。委員それぞれが考えて出来る限りの準備をしました。お客さんは来てくれるのか、「本当に皆が楽しめる学祭になっているのか」不安でいっぱいでした。徐々に来場者が増え急ぎ企画したスタンプリーも幅広い年代の方々から好評でスタンプリーが押された用紙を交換に来てくれた人の笑顔や学内が賑やかになっていく様子に不安が安堵に変わっていききました。今年は動員数が心配されたお笑いライブもほぼ満席で笑いが絶えず、模擬店の出店数やライブの参加バンドの増加で学内が賑やかになり、好評のじゃんけん大会では学長との真剣勝負で歓声が上がることになりました。

今年度の学祭は、完璧といえるものではないと思いますが、完璧に近づいたために皆で協力し、努力しながら、前進することができました。各自得意なことを生かし助け合い、簡単にはできないことがあっても弱音を吐かないという雑貨屋さんとのフアッシュョニョーである。モデルは各大学から選ばれた学生が各々の私服とLinkboxの服をコラボする、という合同文化祭ならではの催しとなった。もうひとつは、「学生カフェ」。市内の洋菓子店にご協力いただき、「いしてまゐ」がひと手間加えたデザートプレートを開発し販売し、順調な売れ行きを見せた。

さらに会場では、市内の6大学の所在地を収めた「学生の活動範囲」の巨大マップが掲示され、来場者におススメの店を記入してもらい「つながるマップ」作りも進められた。文化祭終了後の現在、ここで集まった情報



今回ご協力いただいた皆様、来場いただいた方々一人ひとりに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

弘学祭はどんどん進化していつか来年はもっともっとと素晴らしい学祭になることを楽しみにしています。

今年度は、「触れる・感じる・体験する! ヒロガク流オープンキャンパス」をキヤッチアップ

あったが、当日の多くの笑顔によって、それらの苦勞を頑張った力に変えることができた。多くの方々からのサポートもあり、6大学合同文化祭はこうして大成功に終えることができた。

今年度は、「触れる・感じる・体験する! ヒロガク流オープンキャンパス」をキヤッチアップ

卒業生からのメッセージ

一期一会

文学部 英米文学科 2004(平成16)年度卒業生 下山 和夫

様々な人との出会い。その瞬間は、二度と巡っては来ない。だから、出合いに感謝して、その時その時、一瞬一瞬を大切に生きていこう。

6歳から一輪車を始めて、24年。その間、どれだけ、たくさんの人に出会ったことか。そして、とても多くの事を学びました。

2008年10月、世界的に有名な「シルク ドゥ ソレイユ」側からのオファーがあり、カナダの

ケベック州400周年記念スペシャルイベントに出演させていただいた時のご縁で、その時のプロデューサーや出演者から依頼があり、バリ、イスタンブール、クールシェニールでの公演にも出演させていただき、そこでも又、たくさんのお出合いがありました。

公演の後は、今後のパフォーマンスについて、僕らの夢について、物凄く有意義な時間を熱く語り合いました。

世界で活躍するバトントワラーの世界チャンピオン、自転車トリアル世界チャンピオ

2012年度 オープンキャンパスを終えて

今年度は、「触れる・感じる・体験する! ヒロガク流オープンキャンパス」をキヤッチアップ

レゾとし、第1回は7月21日(土)、第2回は9月8日(土)、第3回は弘学祭の1日目の10月7日(日)に開催しました。参加者延べ数は高校生180名、保護者82名、合計262名となりました。

今年度参加される高校生・保護者の皆さんに本学のよい特色を知らせる意図から、参加者が



礼拝堂での全体会

ン、外国人の一流アーティストのバックダンサーなど、違う分野で頑張っている人達から「刺激」というエッセンスを貰い、夢が更に大きく膨らみ、これをきっかけに今後の一輪車界がより発展し、世界へ幅広く浸透していく様、これからも益々普及活動に力を注いでいきたいと強く思いました。

「刺激」のお蔭で、8年ぶりに



団体銀メダル



文学部体験講義

一同に集う「全体会」を礼拝堂で開催いたしました。全体会は、学長挨拶、学生の話、ハンドベルやパイオルガン演奏を行い、荘厳なステンドグラスの雰囲気を感じていただきました。

体験講義は、第1回において「触れてみよう! アメリカンインディアン文化」「体験! あなただけの知らない日本語」「研究室探訪! ゼミ演習ってなに?」「考えてみよう! コミュニケーションは看護の始まり! 看護と津軽のことば!」、第2回では「体感! 宣教師館の『声』を聴く! 学生生活の報告」の



個人優勝表彰台で(中央筆者)

選手として、2012年7月20日31日 イタリヤ・ブリクセンで開催された、第16回国際一輪車競技大会(参加世界34ヶ国)ソロエキスパート部門に出場し、優勝させていただきました。

僕は小さい頃から、諦めなければ夢は叶う! 強く願えば願うほど、夢は必ず叶うものだと思じて生きてきました。

皆さんも、自分を信じ、出会いを大切に、何事も諦めず、前だけを見て歩いて下さい。

ぞいてみよう! 学問としての母性看護学、第3回は全学部(卒業生・在学生)の「ヒロガクトーク」のタイトルで催されました。参加された皆さんからのアンケートでは大変好評をいただきました。また、「在学生との懇談」も楽しかったと好評で、学生スタッフの頑張り強く感じました。

各学科担当教員並びに関係教職員、学生スタッフ皆々様の尽力に、心から感謝を申し上げます。(文責 入試広報センター 荒木 関)



在学生との懇談会